

## 事業計画書

1. 事業名称 家庭用廃食油回収による地域活性化事業

2. 実施主体

- 団体名: NPO 法人松戸エコマネーアウルの会
- 事業担当課: 環境計画課 商工観光課

3. 取り組もうとする課題

(どのような問題を解決することを課題としたのか。その背景なども含めて記載してください。)

23,24年度に引き続き、家庭用廃食油の回収を行い、回収拠点でそのお礼として、500CCあたり10アウルを渡し、この運動に賛同された地域協賛店で、10アウル=10円の割引やサービスを受けられる。これにより地域商店等のつながりも強化され、ひいては地域商店街の活性化に結び付けたい。

それとともに美しいまちづくり、安全、安心なまちづくりに活動しているボランティアにも、ボランティア活動1回で10アウルを配布して、ボランティア活動への感謝の気持ちとやる気を引き起こし、協賛店で同じように割引やサービスを受けられるようにする。

4. 事業内容及びスケジュール

(3の課題に取り組む上で、実施する事業及び具体的なスケジュールを記載してください。)

21年7月よりアウル事務局を回収拠点として回収を始め、23,24年度は松戸市の協働事業として松戸市全域への展開を目指して活動してきた。23年度の回収拠点12ヶ所、協賛店38店舗に加えて24年度は稔台一番街商店会への展開、常盤平西窪町町会の取組等新しい回収拠点、協賛店の増加も見込まれる状態になってきた。また広報まつどや地域新聞でのPRにより、だんだんと市民の認知度も上がってきている。しかしまだまだ松戸市民全体への認知度は低く、25年度も松戸市との協働事業として、根気よく新しい回収拠点、協賛店の拡大に取り組んでいく。

なお24年4月から10月までの家庭用廃食油の回収量は608Lに達している。また環境ボランティア団体、スクールガードの団体との連携を密にして、拡大を図りたい。スクールガードについては、新しい地域と共に、すでに参加されている、八ヶ崎地区、五香地区の周辺地区にその輪を拡大していきたい。

(日程、場所、実施内容を具体的に記載してください。)

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月～6月	回収拠点、協賛店の参加呼びかけ スクールガードへの参加呼びかけ	馬橋、新松戸地区
7月～9月	新しい回収拠点、協賛店の稼働 スクールガード	馬橋、新松戸地区
10月～12月	回収拠点、協賛店の参加呼びかけ スクールガードへの参加呼びかけ	北小金、根木内地区
1月～3月	新しい回収拠点、協賛店の稼働 スクールガード	北小金、根木内地区

#### 5. 事業に期待する成果

(事業を実施する上で、どれだけのことを達成したいのか。その目標を数値などで記載してください。)

回収拠点5ヶ所、1回収拠点 500L/年を目標としたい。

新しいスクールガード団体 5団体

回収拠点の拡大により、市民が容易に家庭用廃食油回収に参加でき、アウル通貨を使用することで地域商店街の活性化につながる。

#### 6. 協働の意義

(協働の必要性、協働で事業に取り組むことの効果、提案者や市のメリットなどを記載してください。)

最近になってこの活動が少しずつ浸透してリピーターも増えてきた。やはり息の長い取り組みの必要性を痛感している。このような活動を松戸市民に広く浸透させるには「アウル」の会だけでは限界がある。

松戸市の「もったいない運動」の重点事業として、家庭用廃食油の回収リサイクル事業が認定され、アウル通貨がこの推進ツールとして認定されることにより、一般市民や町会、ボランティア団体、商店、商店街へのPR活動が容易になり信頼されることになる。

またこれにより地域商店街、企業の環境問題に対する意識の高揚と市民との連帯感が高められ、松戸市が推進している減CO2活動にも寄与する事となる。

## 7. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

#### アウルの会の役割

#### 家庭用廃食油回収拠点の新規獲得

①廃食油回収拠点として協力してくれる企業、商店、商店街、町会・自治会等の発掘

②廃食油回収拠点としての用具類の準備（回収タンク、のぼり、チラシ、軍手等

アウル通貨の使える協賛店の新規獲得

ボランティア団体の参加、協力要請。

スクールガード、環境美化、まちづくり等のボランティア団体の参加を呼びかける。

### ■ 担当課の役割

(市が行うことを具体的に記載してください。)

#### 環境計画課

廃食油回収システムのPRを図り、松戸市全域にこの運動を拡大させて多くの市民の参加を呼びかける。松戸市として、周期的な広報活動を推進する。

#### 商工観光課

商店および商店街が本事業の趣旨を理解していただき、回収拠点やアウル通貨の使用が出来る協賛店への参加促進を、バックアップする。

## 8. 将来の展開

(このモデル事業の成果をどう活かし、今後、事業展開していきたいのかを記載してください。)

### ①家庭用廃食油回収事業の松戸市全域への展開

企業、商店、町会・自治会などの賛同を得て、回収拠点を松戸市全市に展開していく。これにより省資源、省エネルギー社会の構築を目指す。また協賛店の増加により、地域商店街の活性化にも資することができる。

### ②地域通貨「アウル」の拡大

「松戸市安全で快適なまちづくり条例」に関するボランティア団体の協力を得て「アウル」の循環の輪を広めていきたい。そのため松戸市全域の防犯パトロール、スクールガードや公園、河川、駅前等の清掃ボランティアにも「アウル」の配布を拡大していきたい。家庭用廃食油回収を核にして、多くの市民の参加を得て、地域通貨「アウル」の循環を拡大することにより、市民と商店、ボランティアの連携が深まり、地域への愛着・貢献が図られ、明るい住みよい循環型の松戸市が出来るものとする。

## この事業を継続するための方策

### ①松戸市内の企業の協力要請(活動資金の確保)

市内企業に活動の趣旨を説明して、アウルの会の賛助会員になってもらい資金面の援助を得る。さらに現在の協賛店、回収拠点の企業にも同様に呼び掛けをする。掲示、配布等のPR資料等にも協力企業名を記載して、その応援にこたえる。

### ②PR手段の多様化

まだまだ多くに市民に我々の活動が知られていないので、地域新聞、コアラテレビ等への働きかけを強め、さらにPRをしていく。

### ③新規会員を募集(アウルの会の若返り)

NPO 見本市等の活動を通じて、今まで以上に新規会員募集に注力して、若い世代の力を活用し、人材面の強化を行う。

### ④魅力あるアウル通貨への脱皮

協賛店の拡大が最大のポイントである。これに注力する。

### ⑤松戸市の継続した援助

3年経過後も環境問題に取り組む団体として、幅広い見地から現在の家庭用廃食油の回収活動をバックアップしてほしい。

### ⑥幅広い地域環境ボランティア団体との連携を深める。

8 将来の展開 2項に述べたようアウル通貨を媒体にして、それぞれの団体の市民の参加を得て、アウル通貨の循環の輪を拡大、強固なものにして行きたい。

これらの事項をクリアーして、地域に根差した活動として、アウル通貨を媒体に環境ボランティア団体との連携を図り、地域商店街の活性化と、省資源社会の実現にむけて自立した活動を継続していきたい。

## 事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金）	金 額	積算内訳
			78,000 円
	自己資金合計（a）	78,000 円	
	労力換算額計（b）	356,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	337,000 円	
	資金合計額（d）（a+c）	415,000 円	事業費と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

項 目		金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	廃食油回収拠点、協賛店備品	75,000 円	のぼり、ポールスタンド等 15セット
	活動資料類の作成	200,000	
	（回収拠点の紹介）	(50,000)	町会回覧・掲示用 100×500枚
	（協賛店の紹介）	(50,000)	町会回覧・掲示用 100×500枚
	（市民用）	(100,000)	一般市民用チラシ等 PR 資料 (10×5,000枚×2回)
	活動報告ビラ作成	80,000	50×800枚×2回、
	事務用品費	20,000	事務用品費
	対象となる経費合計額（e）	375,000 円	
その他経費	スタッフ交通費	40,000 円	500 円×80 人
	その他経費合計額（f）	40,000 円	

事業費 (g) (e+f)	415,000 円	収入合計額 (d) と同額
---------------	-----------	---------------

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	全回収拠点巡回(1回/月)	240,000 円	2名×20hr×12回×500
	活動資料作成	16,000 円	2名×8hr×2回×500
	商店、町会、ボランティアとの折衝	100,000 円	2名×10hr×10回×500
合計 (b)		356,000 円	